



もろすみともなり 両角友成県議会報告

本会議では、委員長報告(環境文教委員会)を行いました

下水処理で発生する汚泥の肥料化を積極的に推進するよう意見が、また、有機栽培の重要性も議論されました。

3日間開かれた委員会の主な内容です。

2030年度の温室効果ガス排出削減目標に現状のペースでは達成が困難であることから、ゼロカーボンロードマップ(目標達成までの道筋)が示され、議論。化石燃料から早い段階で、再生可能エネルギーに置き換えること。車の台数を減らす、屋根ソーラーの設置、県民に分かりやすい情報提供により具体的な行動を促す。部局横断で取り組みを加速させる体制構築が必要などの意見が出されました。

環境部

3日間開かれた委員会の主な内容です。



本会議で委員長報告(12月15日)

特別支援学校における学習環境の改善や、教職員の非違行為の根絶と信州教育の信頼回復に向けた更なる取り組みが求められました。

本年3月に発表された、第4次長野県教育振興基本計画、一人ひとりの「好き」や「楽しみ」、「なぜ」をことん追求する「探究県」長野の学びの取り組み状況が報告されました。

教員の採用選考の見直しをしたり、努力は見られませんが、厳しい状況です。特に教員不足が全ての分野で悪影響を及ぼしています。不登校や発達障がいのある児童生徒への適切な支援、高校再編では、生徒や地域の方々との話し合いの重要性も強調されました。

教育委員会

特別支援学校における学習環境の改善や、教職員の非違行為の根絶と信州教育の信頼回復に向けた更なる取り組みが求められました。



立命館中学校・高等学校で視察(10月25日)



豊川の電気自動車放電ステーション視察(10月26日)

会派政策委員長として奔走

「ガザ地区における戦闘休止及び人質の即時解放に向けた取組の継続を求める意見書」を国へ

多くの長野県民が心を痛めている、ガザ地区での戦闘。なんとしても休戦させる。そのために、私たちに何ができるか、何をすべきか、会派で話し合い、結果、長野県民は平和を願っていると「決議」を上げようとなりました。

原案は、国連安保理が11月に上げた「決議」ガザ地区の危機的状況を改善しなくてはならない。特に子どもを守る重要性に鑑み、ガザ地区での戦闘休止や人質の解放等を求めている。(日本も賛同)を参照し、国際社会の一員として、この戦闘によって多くの一般市民が直面している危機的な人道状況を改善するため、ガザ地区における戦闘が持続的に休戦され、人質が即時解放されることを強く求めるものである。と作り上げました。

11月30日定例会初日に各会派を回

り、担当者に説明に歩きましたが感触のよくない会派もあり、決議は全会一致が原則。12月7日午後1時が提出期限。時間との勝負となりました。6日の夜まで交渉。自民党の政調会長とは、こんな時代に戦争なんて、と議論が煮詰まり、一地方議会から長く争う両方にものを言うのはいかがか、国に意見書の形ならと合意。7日の朝案文を確認しあい、自民党案で了解。自民と並行して会派を回り、経過を説明。

結果5つの会派の代表が意見書(案)に全員署名、共同提案となり8日の本会議にて採決がされ、全会一致で可決成立。

会派の政策委員長としては、私どもが、提案しなければ成しえなかった事であり、粘り強い取り組みが、議会を動かしたと思っています。

ご意見・ご要望をお寄せください。

